教文通信

発行所
長野県教育文化会議
発行人
寺尾　真純

教文通信写真館　シマリス　2023_08_20 下諏訪町　霧ヶ峰

写真とエッセイ：木下通彦さん（生物教育研究会　飯田 OIDE 長姫高校）

かわいいけれど外来種

（エッセイの続きは 4P）

今号の記事

01-04
第 3 回総研報告 Part 2
04
教文通信写真館エッセー
05
2024 夏　教文研修・自主研修
06-08
教育のつどい
全体報告
参加者感想

高校生が自らの人生を主人公として歩む

「高校生のキャリア意識形成」を考える総合研究会

総合学科は高校生のキャリア意識をどう形成するのか
普通科の自治活動はキャリア意識形成にどう貢献するのか
「教育改革」が進められる今、そこから何を学ぶのか

第 3 回総合研究会報告 Part 2

民主教育研究所　中教研報告と現場からの報告・討論で「キャリア意識形成」を熟議

■民研　中教研レポート③

◎「松本美須々ケ丘高校調査の目的と概要」と題して太田政男さん（民主教育研究所）より。報告は以下の通り。

調査対象の選定

＊なぜ、松本美須々ケ丘高校を調査対象に選んだか、その理由

①総合学科の調査から普通科の学校も調査したいと考えた時、志学館高校と同じ地区にあり、学力的観点も加味して選定した。

②美須々ケ丘高校の特色として、職員・生徒が学校に対しての思いが強く、教科以外の伝統の豊かな自治活動（双蝶祭・ミスズっ子ミーティングなど）や、全国に誇る美須々ケ丘憲法で、母校への思いが形作られている、という点にも注目した。

調査のねらい

＊調査のねらい（2019年9月）

①高校普通科におけるキャリア教育、とくに学校教育全体を通じたキャリア教育の実践。

②教科以外の教科外活動や特色ある取り組みが生徒のキャリア意識形成、進路意識に与える影響。

③キャリア教育を直接うたっていない学習で、キャリア教育の効果をあげる可能性、事例・・生徒が主体。

「普通科高校における『キャリア意識』はいかに形成されるか」

◎次に、「普通科高校における『キャリア意識』はいかに形成されるか－普通科F高校を事例に」という報告が福井庸子さん（民主教育研究所）よりあった。概略は

＊キャリア意識に関する質問として

①入学時よりも、将来の職業や進路など自分で決めようと意識するようになった。

②入学時よりも、自分で考えたり行動したりするようになった。

③入学時よりも、将来、社会に出て行くことに自信が持てるようになった。

④入学時よりも、自分の意見を発言できるようになった。

⑤入学時よりも、うまくいかないことや失敗することがあっても、ねばり強く取り組めるようになった。

⑥入学時よりも、職業や進路に関心を持つようになった。

の項目でアンケートをとった。（自由記述も含む）

総合学科と普通科を比較して

＊総合学科 塩尻志学館高校と普通科 美須々ヶ丘高校を比較して

塩尻志学館高校は入学時より、比較的キャリア意識を持って入学しており、特に、2年から3年で、一挙に伸びる。美須々ヶ丘高校は入学時は意識はあまり高くないが、着実にキャリア意識は伸びており、特に、1年から2年にかけての伸びが著しい。その理由は、コロナの影響もあり、調査が中断したため、不明。

＊美須々ヶ丘高校で、何がキャリア意識の形成に影響を与えているか。自由記述から考えられるのは、文化祭・卒業式などの行事。それも、生徒自ら作り上げるものや、体や頭を動かし進めるもの。

＊進路行事から影響を受けたものは、後の進路に関わる内容のもの（卒業生・企業の方の話を聞くなど）が大きく、教科の補習などは影響が小さい。

＊生徒会本部役員・文化祭実行委員や有志委員などの経験者はキャリア意識が高い。

＊部活動参加者には、特に相関関係は見られなかった。但し、自分たちで企画・運営、発表を行っている部の「キャリア意識」は強く出ている。

＊日常の教科活動がどのように、キャリア意識形成につながるのか。特に影響を受けた教科は、英語・数学が大きく、次いで、生物・国語古典・政経などである。自由記述をみると、英語は将来の進路に関係しているから、数学は自分が向いていないと早く決断できたから、政経は関心が社会に向けられたから、などの理由である。

＊進路希望の性差はいつ頃に現れるのかを分析した。その結果、男子よりも女子の方が進路に関する意志決定が早い傾向がる。そこから、女子の選択肢が男子よりも限定されている可能性が予測される。

＊男子の場合、保護者の四年制大学への進学期待が3年間を通して高止まりしているにも関わらず、女子は大きく減少していく。

＊進路の性差が拡大するに従って、学校での勉強への意欲、放課後の学習時間が、女子に限って減少していく。それは、「学校の勉強はためになると感じることがありますか」という質問に対して、男子はためになる、と答える層が増加し、ためにならない、と答える層が減少することに現れている。

＊また、「学校の勉強はつまらない」と感じることがあるか、という質問に対して、女子はつまらない、と感じる層が増加する一方、つまらなくない、と答える層は減少している。その理由については考察できていない。

＊このような男女の性差による「キャリア意識」形成の違いは、生徒に起因しない外部の影響（家庭の経済や、旧来の価値観など）が、無自覚なまま、生徒本人の進路選択に取り込まれている可能性がある。

＊今後、性差に由来する経験なども含めて生徒と共に捉え返し、彼女たちの選択の幅が必ずしも、男女平等ではない点を理解した上で、性差にとら

われない、将来への展望が描けるような教育的な働きかけが必要である。

■実践報告

◎次に職業高校からの報告として、山下昌秀さん（上伊那農業）の「上農で私と伊那谷をデザインする」のレポートが示され、当日来られなかった山下さんの代わりに、同校の田澤秀子さんより補足説明があった。レポートの内容は

＊7年前の学科改編で4学科8コースとした。その結果、生徒像が変わり、地区では人気校へと変化した。

＊HRごとの授業ではクラスの人間関係が構築され、専門学習では、コースの人間関係構築につながっている。部・班活動や農業クラブ活動も人とのつながりをささえている。

＊1年次のローテーション学習で、多くの農業科の職員がかかわることで生徒の情報交換が増え、「コースの生徒はコースで育てる」のスタイルに変化し、担任の負担軽減になっている。

＊探究学習に必要なことは、教員が本物や現場に触れる接点のプロデュースをすること、生徒同士の学びあう仕組みをつくることである。

＊自己肯定感を育むきっかけは多様な人々との出会いだと感じている。その場をつくることが教員の役割。これらは、上伊那総合技術新校（仮称）設立にも必要な理念である。

以下、田澤さんからの補足部分

＊2年後に、1学年3学級規模の学校となる。総合技術高校になったとしても、農業科3クラスは維持したい、という意見が多い。その際のカリキュラムをどうするか、など課題も多い。

＊現在、専門的な探究活動を進めているが、基礎学力が不足しているように感じる。また、探究学習は専門分野の教員がいなくなったときに、どうするのか。異動してしまうと継続は難しい。

＊生徒達は、大変素直でよい子だが、批判的に事象を捉える力・本質を見極める力が弱いと感じる。また、自分の力に自信が無いのか、評定平均が高い生徒達も、推薦・指定校推薦のほうに流れやすい。自分の力を活かして伸ばしていこうという姿勢が弱い。

■指定討論

次に、塩尻志学館高校・松本美須々ケ丘高校の元職員の方から、学校の様子をお話をお聞きした。民研のアンケートの内容と重なる部分が多く、より具体的にイメージすることができた。

◎元 塩尻志学館高校 職員である岡庭真一 さん（現松本深志高校）からの報告

＊8年間、志学館にいたが、何らかの目的意識を持って入学してくる生徒が多かった。日常的に外部の人の話を聞く→メモをとる→グループワークで話し合う→発表、という形ができあがっており、グループワークが苦手な生徒であっても、周りに影響されて、参加できるようになる。但し、教師はとにかく忙しい。毎回、生徒のレポートをチェックし返す、を繰り返す。

＊1年の早いうちに科目選択をさせるが、生徒と話し合いをしっかりとしながら決めていく。自由選択が多いので、専門の教師に話を聞きに行かせ、決めさせる。

＊キャリアプランを考えさせ、皆の前で発表しあう。それが、いい意味で刺激となって、個々のキャリアデザインを描くヒントともなる。

＊探究活動はキャリア教育がメインとなる。積極的にリーダー的な役割を果たす生徒も多く、地元企業からの評判は大変よい。

◎元美須々ケ丘高校職員の祖父江信一さん（現田川高校）から在職当時の卒業式のビデオを見せていただきながら、お話いただいた。

＊卒業式はⅡ部制で行っており、Ⅰ部はいわゆる、

＜2024教育のつどい in 大阪＞

儀式的なもの。Ⅱ部は卒業生が自ら、企画運営に携わるもの、という形が何十年も伝統的に継承されている。

＊なぜ、Ⅱ部制になったか。「入学式に在校生が参加しないのは、おかしい。また、卒業生が、世話になった人たちを前に自分たちの3年間を総括する場が欲しい。」という声があがり、学校側がそれを受け入れた、ということらしい。

＊キャリア教育を特に、やっているわけではないが、自治的な活動を通して、自分たちが何をなすべきか、何が全体にとって、最良なのか、生徒たちで考え実行していく、という風土が学校にあり、様々な経験を通して、自分の生き方について考え学ぶのではないか。

■研究討論

質問：普通科における、キャリア意識の形づくりが、どのようになされるのか、よくわかった。ところで、総合学科が導入された当初、文科省は全国で1000校にする、と意気込み、ブルドーザー的に強引に進めようとした。少しずつ、トーンダウンして500校にするというところで落ち着いたが、2022年度から、総合学科高校は減に転じ、300校余りである。国レベルで推進させるというよりも、各都道府県まかせになっている。「新たな普通科」という発想も入ってきており、総合学科などの多様化路線とは異なっている印象だ。今、「総合学科」の位置づけはどうなっているのか。

回答：当初、「人材育成」という政策の目玉として、文科省は強引に現場に下ろして進めようとしたが、現在は頓挫している。民研の年報22号に各都道府県の様子が掲載されているが、高校の再編計画の一環として進められており、国主導ではなく、都道府県にすべて任されている状況だ。文科省はその理由として、経費がかかること、保護者の理解が得られていないこと、を挙げている。普通科の統廃合とセットであり、「総合的な学び」の理念に基づいているわけではない。

感想：長野県は総合学科が全国的に減に転じている中で、再編計画として進められている。普通科の統廃合とセットであり、「総合的な学び」の理念に基づいているわけではない。全く、統廃合の手段としてしか考えていない。

■まとめ

＊「総合制」の学びについて。理念は「横断的な学び」を意味していたはずだが、困難校や低辺校の統廃合としてスタートしており、無理がある。多様化の便利な方法として使われている。頑張っている学校はほんの一握り。

＊今回の研究結果を現場の教員達と共有することの意味を再確認した。

（常任　中村富貴子）

教文通信写真館エッセイ（続き）

かわいいけれど外来種

人をあまり恐れず、かわいい仕草を見せてくれます。巣穴に巣材を運ぶ様子なども見られました。

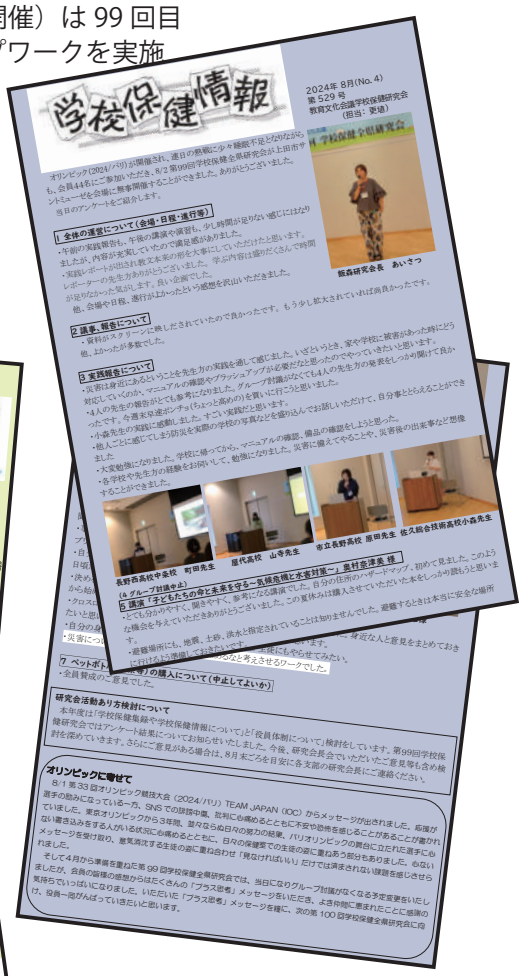
本州にはシマリスはいませんでした。ペットとして朝鮮半島などから輸入されたシマリスが、かご脱けや意図的な放獣により野生化したと考えられます。少し古い分布図では信州には侵入していないように描かれていますが、最近急激に分布を広げているようで、霧ヶ峰や美ヶ原周辺の森林にはかなりの数生息していると思われます。他の外来種ほど影響が大きくないと考えられることから、今の段階では要注意外来生物に指定されています。

北海道には在来の亜種エゾシマリスが生息しています。しかし、本州同様に輸入されたシマリスも野生化しており、これらの大陸亜種との交雑により、在来種の遺伝子のかく乱が心配されています。

動画
https://drive.google.com/file/d/1w1xLy5dajD7lhaYbV2a-wccOM12EaGSv/view?usp=sharing
シカの声も入っています。
シマリスの YouTube 動画
https://youtu.be/NZHIyK6_Z78

学校保健全県研究会（8/2 開催）は 99 回目
実践報告・講演・グループワークを実施

家庭科教育全県研究会（8/5 開催）は
128 回目
講演会・講習会・交流会で充実！



松本筑摩高校職場教研
2024年度2回目の今回は
「土と親しむ」

2024年夏 大いに学びました 教文研修・自主研修で

8月19日（月）猛暑の中、長野県高校地理教育研究会（高地研）の夏季巡検（「関東西部巡検」）に参加しました。目的地は高尾山薬王院と三富新田（埼玉県入間郡三芳町）です。12名の先生方が参加されました。

松本からマイクロバスを借り上げて、まずは高尾山に向かい、薬王院で加持祈禱をうけ、電車に乗って国分寺でお昼、再びマイクロバスで三芳町に向かいました。地理の教科書に掲載される畑の新田の景観・農業の様子など、三芳町の職員のこうださんに伺いました。三芳町立上富小学校の屋上から、新田を眺めました。帰路は雷と豪雨の中、松本に向かいます。

暑い中の夏季巡検が去年から復活しました。昨年は米軍座間キャンプ・ロマンスカーミュージアムと横浜中華街でした。

巡検参加は旅費別途の学校出張です。教育公務員特例法による「改正研修受講履歴記録システム及び教員研修プラットフォーム」とやらにも、入力しました。自主研修の記録がサーバーに残ることにやや違和感を覚えますけど。

（松本蟻ケ崎高校　望月　映）

暑、暑 大阪 熱 語 合う

教育 in 大阪 報告

8月16日から18日、大阪市内で教育のつどいが開催されました。長野県からは19名(内レポーター9名）の参加がありました。高校生2名も参加し分科会で発表をしました。記念講演、5のフォーラム、18の分科会が開催され、全国から276本のレポートが寄せられました。3日間の参加者はのべ4300人（オンライン含む）でした。

16日の開会全体集会は中之島の大阪市中央公会堂で開催されました。オープニングアクトで、映像の世紀「パリは燃えているか」の演奏で開幕し、初日は1000名の参加者(オンライン500人）で2階席まで参加者で溢れました。

記念講演は斉加尚代さん（毎日放送報道情報局ディレクター）が「なぜ教育とメディアは狙われるのか？　歴史改ざんと『愛国』の危うさを考える」と題してお話をされました。冒頭、東京都知事選に触れ、SNS等での視聴率競争社会、アテンションエコノミーの時代だと現状分析をされました。また大阪維新の会について、公教育をビジネスのことばで語り市場化している。大阪は政治主導の教育改革の実験場になっていると批判しました。大阪では私立高校授業料無償化が実施にともない、私学への進学の流れが加速化する中で、3年間定員割れする公立高校は統廃合の対象となっており、一層の再編が進むことが予想されます。斉加さんは、映画「教育と愛国」に触れ、教育基本法改悪にともない「政府見解」が教科書に編成され、創意工夫した授業から教科書通りの授業が行われてきたと述べました。この結果、「社会構造を問わない、問えない姿勢に」なり、「自己責任に帰す、政府側に沿う冷笑主義」が広がり、社会の病理になっていると分析をしました。この状況に対して「教育では、批判的思考がもっとも大事、『だが、しかし』と主体的に考える子ども」の育ちに携わることが大切だと述べました。

現地企画では教育関係団体や青年教職員から、命と安全にかかわる問題だらけの「万博遠足」中止や特別支援学校の教育環境改善、高校の統廃合による生徒への影響など大阪が抱える課題について訴えがありました。

16日夕刻から教育フォーラムが5会場で行われました。「子どもにとってのWell-being」「教育DX」「多様性尊重の教育」「平和を考える」「大阪の教育」がオンライン併用で開催されました。「教育DX」では、基調報告で学びの保障の在り方が問われ、ICT（情報通信技術）と政府のDX政策を切り分けて考えることが必要であると提起されました。教育コンテンツの提供により学びの定式化や教員の力量低下が懸念される。デジタルコンテンツ利用による学習の個別化と子どもの社会的分断が起き、時間的・空間的制約の低減にともない学校という場の解体が進む。教育と校務の標準化による教育の画一化と国家統制が進むことになると課題を示しました。デジタル教科書について、出版社は制作費の回収が難しく発行者は減少し、寡占化が進んでいる。「良質な教科書の発行によって多様な教育実践を保障すること」が危機に瀕していると出版労連から報告がありました。

17日から18日は分科会が18会場で開催され、長野県からは9本のレポート参加がありました。「主権者の教育と生活指導・自治活動」分科会へ辰野高校の生徒も参加し、生徒会活動を通じたSDGs活動の取り組みを報告しました。社会に向けた広い視点を持って、主体的で地域との連携を基本に据えたダイナミックな取り組みに参加者から驚きと称賛が寄せられました。自主的で自治的な生徒会活動を通じて生徒の着実な成長がみられる報告でした。教育のつどいは全国の実践に学び、県内の実践を紹介する貴重な機会です。来年はレポーターとして、一参加者としてご参加ください。

全体会会場：国指定重要文化財　大阪市中央公会堂

全体会（16日 13時～15時30分）
記念講演 斉加尚代
現地企画

★ここ20年安倍政権の下進められてきた政府の教育介入の流れがよくわかって納得しました。（井口）★講演がドキュメンタリーのTV放映や映画の内容だったことに驚いた。現地企画の青年部の発表は「頑張れ」と応援したくなる内容でとてもよかった。（髙橋）★育鵬社教科書の執筆者である伊藤隆氏へのインタビューの話がおもしろかった。斉加さんに拍手です。（牧内）★難しい内容でしたが、より良い教育の実現の為にはどうすべきか考えさせられ、とても勉強になりました。（赤羽）★斉加尚代さんの講演は、「教育改革」が現場とはかけ離れたところで進み、一部の学者などの意見を鵜呑みにした政治家などが十分に吟味もなく安直に取り入れている実態も紹介されました。子どもたちを中心とした教育の大切さを守らなければいけないと強く感じました。大阪の先生たちのアピールでは、教育に対する攻撃を具体的に訴えられ、その深刻さを知ることができました。3年定数割れで廃校という高校再編や民間試験で合否判定など子どもたちを商品としか見ていないようなことが実際に起きており、この国の先行きが心配になるばかりです。（木下）

全体会記念講演「なぜ教育とメディアは狙われるのか？歴史改ざんと『愛国』の危うさを考える」
講師：斉加尚代さん　毎日放送ドキュメンタリー担当ディレクター。「教育と愛国～教科書でいま何が起きているのか～」で各賞受賞。「何が記者を殺すのか　大阪発ドキュメンタリーの現場から」（集英社新書ほか

全体会現地企画　2024教育のつどいを支えるさまざまな立場の方からの発言で、大阪の教育の今を浮き彫り

教育 オー（16日 17時～19時半）

★Eどうなっているの?!大阪の教育…生徒、保護者、府立高、私立通信高のパネリストが現在の高校教育に対する思いを語り、大いに共感しました。（井口）★Dどうして戦争はだめなのー若者と平和を考えるー…戦争が起こっていた当時の残酷さを知るとともに、そういった過去を繰り返さないために平和の実現を目指す必要があると感じた。（赤羽）

分科会
17日 10時～17時30分18日　時30分～16時

★理科教育…小中高合わせて12本のレポートがあり、1本ごとにさまざまな議論がされました。実験の結果と確かになったことを自分なりの言葉で書くことできるように取り組んだ高校のレポートをもとに、発達段階に沿った取り組みの必要性を確認しながら議論がなされるなど、大変に勉強になりました。高校ではあまり意識されない発達段階に沿った指導の重要性や小学校、中学校の教育の変化なども知ることができました。「地球温暖化」や「原子爆弾」など科学技術の負の部分の扱いが、教科書では問題の大きさに対してわずかであり、それをどう子どもたちに伝えるかという部分も議論されました。小中も含めて科学技術の負の部分にも、もっと触れていく工夫が必要だという議論もされました。今回レポーターとして参加しましたが、多くの方からの意見をいただき、レポートの終わりに「これからの授業に活かしていきたい」と締めくくってしまいました。再任用も3年目でそろそろ、と「これから」はないつもりでした。でも、やっぱりこういう場にくるとやる気、元気をもらえます。

理科教育分科会でレポート発表

若い先生こそ参加して刺激を受けてほしいと思います。（木下）★外国語・外国語活動…レポーターとして分科会に二日間参加しました。初めての参加であったため、「レポート内容を色々と指摘されたらどうしよう…」と最初は少し緊張していました。しかしそれとは逆に、自分では全く気付いていなかった自分の取り組みの良いところを多く発見していただき、日々の取り組みに自信を持つことができました。また、都道府県や校種を超えて、様々な実践例を聴くことができ、「これ私もやってみたい！」と思うものにたくさん出会うことができました。「授業どうしよう…」と一人で悩んでいてもなかなか解決しないとき、今回の例を参考に、楽しく授業づくりに励んでいきたいです。様々な収穫があり、参加して本当に良かったと感じました。支部・県教研も含めて「参加すると、授業のネタが増える！」くらいの軽い気持ちで、若い先生方にも参加してほしいと思います。（盛田）★発達・学力、教育課程づくり…レポートを義務、高校とバランスよくまとめてあり、飽きずに参加できた。18日午後は参加者が少なかったが、その分、複数の共同研究者からたくさん助言や感想を聞くことができて良かったと思う。（髙橋）★国語…17本のレポート中、小学校がほとんどで、高校4本でした。全国の元気のある授業実践に触れられて楽しかったです。（牧内）★主権者の教育と生活指導・自治活動…不登校の子がクラスに馴染んでいくお話を聞き、クラスの雰囲気であったり、環境が変えていくんだなと感じた。また、辰野高校の取り組みについてプレゼンし、意見交換を行い、学校をより良くするための意見をもらうことができ、とても勉強になりました。（赤羽）★子ども・青年たちの生きたい社会づくり…「再生可能エネルギーの導入と地域食材食品からの地域活性化」と題したレポートを発表しました。レポート発表で時間が押して質疑の時間が少なくなり、質問も少なめでしたが、伝えたい事は伝わったと思います。小水力発電が達成する「エネルギーの地産地消」という事に興味深さを感じるという意見が有りました。太陽光に基づく小水力発電は、山国の長野県ではCO_2も出さず、地球温暖化防止にも役立ちます。平均標高が日本一で冷涼な長野県を生かした作物を加工して販売し、利益を地域のために還元できれば、長野県が持つ過疎化等の問題解決に貢献できるのではと、ワインやパンやピザ等の例を紹介しました。平和や民主主義、ウクライナの状況等を考えさせられる素晴らしい物が多かったです。（森嶋）

※誌面の都合で一部を編集、掲載しています。分科会感想は、レポーターの方々のものを掲載しています。

外国語教育・外国語活動分科会で

レポート発表後、他県の高校生と交流
辰野高校から参加の赤羽村紫音さんと浦野さくらさん

「ままならない体と生きる」

2024年度　長野県教育研究集会　記念講演（オンライン）
2024年11月2日（土）10：00～12：00
パブリックビューイング：上伊那農業高校
講師：伊藤　亜紗（いとう　あさ）さん
美学者。
専門は美学、現代アート。
東京工業大学 教授
／科学技術創成研究院 未来の人類研究センター
／リベラルアーツ研究教育院
／環境・社会理工学院

県教研参加申込は
こちらのサイトから
https://www.kenkyoken.com/

2024 長野県教育研究集会

＜共催団体名＞
長野県保育問題連絡協議会
全国福祉保育労働組合長野県支部
公益社団法人長野県教育文化厚生協会

＜後援団体名＞
長野県 PTA 連合会
日本教育公務員弘済会長野支部
長野県教職員互助組合
長野県退職教職員互助組合
長野県教職員組合会館
教職員共済生活協同組合長野県事業所
辰野町教育委員会
箕輪町教育委員会
飯島町教育委員会
南箕輪村教育委員会
中川村教育委員会
宮田村教育委員会
信州の教育と自治研究所
長野県高等学校退職教職員協議会
生活協同組合コープながの
長野県高等学校生活協同組合

11月2日（土）は
県教研
申し込みは
コチラから

開　催　日　程
2024年11月2日（土）
全体集会・記念講演　10：00～12：00
上伊那農業高校　＋　オンライン

分科会　13：00～17：30
参集　ハイブリッド　オンライン
（上伊那農業高校・伊那中学校）
※11/3（日）にも開催の分科会あり